令和７年度　関係者評価委員会をふまえた総合評価　　令和８年３月５日

１　関係者評価委員の評価より

・関係者評価の評価点平均はR5年度3.791、R6年度3.843、今回3.922となり、徐々に数値が上がり、本園の保育の方向性について評価いただいたと言える。

・評価項目で関係者評価委員が５人とも「４」の高評価いただいたのは23項目中15項目あり、前年度比３項目増となった。課題改善の成果を認めていただいた。

・関係者評価委員が「３」とした項目は８項目あった。前年度課題として捉えていた「園児の登園意欲」は改善したが、「研修を保育に生かす」については十分とは言えない。

２　関係者評価委員からの提言

（１）園内参観（11/20、2/26）の気づき

・保育が安定してきており、子どもたちが自分の発意で遊んでいる。自分たちで考え、作り、工夫し、友だちと関わっていくことで遊びが少しずつ変化していく中で、遊びの質が上がっている様子がうかがえる。

・11月は「何しようかな」という子どもがいたが、２月はどの子も遊びに没入しており、本園がめざす子どもの姿が見えた。日常の遊びの中で「楽しい」「おもしろい」を堪能することができている。おもしろさを見つける力、楽しんで取り組む力を育むことができており、その力は小学校以降の学びにつながる。

・子どもたちは遊びに没頭していて「遊びは学び」の姿を見ることができた。段ボールを使ったダイナミックな遊びをはじめ、遊びが深まっている印象だ。

・年少児もはさみを上手に使って遊んでいた。日頃からはさみを自由に使わせているとのこと。家庭でももっと使わせてよいと感じた。また、11月は０歳児は砂場に座っているだけだったが、２月になるとスコップを手に持って砂を掘って遊び、２歳児は道具の貸し借りをするなどそれぞれに成長が見えた。本園の遊びの環境がすばらしいことをもっと多くの人に知ってもらいたいと思った。

・自分の遊びができている子どもたちへの言葉かけや家に持ち帰った制作物に対する言葉かけはとても大切である。言葉かけのしかたを保護者と共有するなどして家庭との連携を深めることで、相乗効果によりさらなる保育の質を高めることができると考える。こうした経験は保育者のさらなるステップアップにもつながると思われる。

（２）学校評価について

・〔園の方針・保育の内容〕の保護者の評価点が上がっており、本園の保育に対する保護者の理解が深まっていることを嬉しく思う。その一方で、保護者に見えにくい「研修を保育に生かす」ところが課題である。研修したことを保育に生かしているからこそ保育の質が向上している。生かしていることをどのように見える化していくかが課題と言える。

３　関係者評価委員会による評価を終えて

・これまで講じてきた手立ての効果が保護者及び教職員のアンケート結果、関係者評価の数値で確認できた。本園の保育の充実をめざしてさらに推し進めていく。

・関係者評価委員の方には継続した園内参観により子どもたちの遊びの変容を見取っていただけた。今後は課題と捉えている「研修を生かした保育」の見える化に向けて、保育中の手応えを言語化して教職員間で共有していくとともに、保護者の方にドキュメンテーション等を通じて伝達できるよう努めていきたい。